

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン(戦略プラン 2016)における記載の訂正について

2017年3月17日

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

「戦略プラン 2016」3-12 ページの「図 3-5 福島第一原子力発電所のリスク分析の例」において、多核種除去装置等の二次廃棄物(以下「HIC スラリー」という。)の潜在的影響度の計算に誤りがありましたので、お詫びして御報告いたします。

「図 3-5 福島第一原子力発電所のリスク分析の例」における潜在的影響度は、リスク源の放射能と潜在的比毒性の積である Inventory、固体、液体、気体等の性状に依存する Form Factor、安全機能喪失時の時間余裕を表す Control Factor で構成されています。Inventory の放射能は、貯蔵量と放射性物質濃度の公開データを用いて算出しておりますが、今回の訂正は、HIC スラリーのデータ(Sr-90 の濃度)として Bq/cm<sup>3</sup> 単位の数値を Bq/l 単位の数値として取り扱い、潜在的影響度が 1/10<sup>3</sup> に計算されていたことによるものです。お詫びして訂正させていただきます。

「図 3-5 福島第一原子力発電所のリスク分析の例」について、他に単位換算の誤りのないことは確認いたしました。修正作業が終了次第、弊機構 HP 上の「戦略プラン 2016」に反映させていただきます。

なお、正しい計算を行った場合であっても、HIC スラリーのリスクが「【分類Ⅲ】より安定な状態に向けて措置すべきリスク源」(緑色)との評価に変わりはありません。

戦略プラン 2016 の「図 3-5 福島第一原子力発電所のリスク分析の例」以外の部分につきましては、4 月中旬を目途に検証を行い、修正がある場合は速やかに報告させていただきます。

今後は、データの検証を徹底し、同様の誤りを再発しないように致します。重ねてお詫び申し上げます。

問い合わせ先：

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

廃炉総括グループ

池上、野村

03-5545-7104